

ももたろう基金 事業実施報告書

実施事業： まびっ子えがおプロジェクト

実施者名： 自学道場（安永教育学院株式会社）

助成金額： 62,000 円

実施した事業の内容・成果

別途、活動報告 vol.1、vol.2 を参照。

活動内容の写真などを添付してください。

決算報告 (※必要に応じて領収書の写しを添付いただく場合があります。)

今回実施した事業の決算内容は下記の通りです。

費目		金額 (円)
収入の部	ももたろう基金	62,000
	収入合計	62,000

費目		算出根拠	金額 (円)
支出の部	食材費	別途領収書の写しの通り	54,644
	教材費	別途領収書の写しの通り	6,963
	雑費		393
	①当プログラム助成金 対象費目		
	当プログラム助成金 (このプログラムで集めた寄付金) を充てる費目		
		小計	62,000
	②その他費目		
当プログラム助成金 (このプログラムで集めた寄付金) を充てない費目			
	小計	0	
支出合計			62,000

寄付者へのメッセージ

この度の西日本豪雨災害でのご支援、誠にありがとうございました。

当事業では、2018年7月21日より8月31日までの夏休み期間中に、子どもたちの居場所づくり、昼食の提供、学習支援を行ってまいりました。小学3年生から中学3年生までの児童生徒が利用してくれました。

復興への作業を進めなければならない保護者にとって、子どもたちの居場所を探すことは困難でしたが、その意味で当事業の意義は大きいものとなりました。

子どもたちは特に温かい昼食や、かき氷などの夏らしいおやつは大いに喜んでくれ、満足してくれました。

被災者にとっては、これからも復旧・復興の作業が続いていくこととなります。私たちはこれからも被災者の方々とその子どもたちのために引き続きの支援を行ってまいります。

今後とも岡山県の復興へのお力添えのほど、よろしくお願い申し上げます。

今後の活動

引き続き、復興支援の取り組みとして、以下の2つの内容を実施する。

- ① 高校受験、大学受験生に対して、自学道場の授業料を無償化(2019年3月31日まで)
- ② その他すべての学年の児童生徒に対して、罹災証明の提示で自学道場の授業料を半額(2020年7月末まで予定)

平成30年7月西日本豪雨 復興支援事業 まびっ子えがおプロジェクト

活動報告 vol.1

2018.8.1発行
【2018.7.17～31】

記憶にも記録にもない、集中豪雨



7月7日、岡山県を襲った集中豪雨により、報道等でもご存知のように倉敷市真備町の多くの家屋が浸水しました。

自学道場でも被害こそなかったものの、三日三晩降り続けた豪雨のために隣の用水路の水があふれ、周りの道路が冠水するほどでした。

自学道場には、真備町からは冬期講習や春期講習に来てくれる生徒も多く、「被災した子どもたちのために出来ることは何か」という思いから、復興支援事業として「まびっ子えがおプロジェクト」と称し、まず第1弾として、被災した児童生徒の自学道場での受け入れを開始することを7月9日に決定しました。

あの日から10日、自学道場へ

7月17日、発災から10日。自学道場での子どもたちの受け入れが本格的にスタートしました。この日は小学3年生から中学2年生までの子どもたちが来てくれました。有志の皆様のご協力のもと、昼食の手配もしていただくことができました。

子どもたちは初日の何とも言えない緊張感もありながらもご飯の時間になると「おいしい！」と言いながら、この日は魚のフライやシフォンケーキを頬張っていました。

久しぶりに会えた友達と、全力でトランプやオセロを楽しむ姿にスタッフ一同胸をなでおろしました。



念願の外遊び！3塾合同遠足



7月20日、自学道場も加盟している「岡山次世代スクール協会」の3塾合同遠足。行先は岡山市にある「人と科学の未来館サイピア」。真備の子たちもバスと電車を使い継ぎ、科学実験やプラネタリウムで学びを深めていきました。



夏期講習スタート



7月23日、自学道場の夏期講習がスタートしました。夏期講習期間中は、真備の子も通常通っている塾生も、夏期講習だけを受けに来ている講習生もみんな一緒に授業参加です。

真備の子たちは、学校によってはまだ宿題が手渡されていません。特に自学道場に来ている自主避難家庭の子どもたちは受け取っている情報も少なく、夏休み中にどのように過ごせばよいか分かっていない子がほとんどです。

そんな中迎えた夏休み。少しでも楽しく、賢くなれる夏に出来るよう生徒と一緒に頑張ります！

ヘッドコーチ安永より

人生でも経験したことのないような長い豪雨。河川の氾濫や決壊が招いた爪痕は深く大きいものとなりました。我々は、7月8日より近隣の避難所への物資の輸送、必要な情報発信を行ってまいりました。この度、「まびっ子えがおプロジェクト」を実行するにあたり一番に困ったのが、避難者の現状把握でした。震災とは異なり、本当にちょっとした標高の違いでいたって普通の町と被災した町の違いが出てしまうことで、避難所から早々に出ていく避難者も少なくありませんでした。果たして自学道場の無料開放が役に立つのかどうか。これが当初の一番の不安でした。

今回、自学道場に来ている子どもたちも、早々に避難所を出て、真備町以外のエリアで生活再建を目指している子どもたちです。今後、真備町を出る選択を余儀なくされる家庭も徐々に増えていくことが予想されます。避難者の生活再建のエリアが広がれば広がるほど、行政だけでなく、我々民間でも被災者のニーズの把握が難しくなってくる恐れがあります。

現に真備町から出て、自学道場近隣のエリアに引っ越してきた子どもたちもいます。8月からはその子たちも受け入れていく方針です。

今はまだ物資が届き、ボランティアも集まります。しかし、これから5年、10年先を見据えたときに、復興していくために必要なのが教育の力だと我々は考えます。

生まれ育った真備の町をどう復興していくのか、被災した子どもたちはもちろん、自学道場の生徒たちにもぜひ考えてほしい。そう思いながら、この夏期講習の学びにつなげていきたいと思えます。

【当プロジェクトにご支援いただいている皆様】（順不同）

守屋久美さま

高田加奈子さま

うどん工房 遊庵さま

和風料理 町田さま

医療法人社団 東風会さま

（一社）岡山自立支援協会さま

LalaOkayamaさま

田中智子さま

小原陽子さま

自学道場塾生の保護者の皆様

他、多数の皆様

頂戴しました支援金につきましては、食材や、教材・文具を購入する費用、および遠足の際にかかりました費用に充てさせていただきました。ありがとうございます。

平成30年7月西日本豪雨 復興支援事業 まびっ子えがおプロジェクト

活動報告 vol.2

2018.9.1発行
【2018.8.1～31】

楽しみにしてくれた、お昼ごはん

「まびっ子えがおプロジェクト」第1弾として、夏期講習期間の無料受け入れとお昼ごはんの提供を行ってきた自学道場。8月からも利用者が増え、自学道場でクラスメートと再会できた子どもたちもいました。

毎日、多くのご支援をいただきながら、この夏休みの期間中、色々なごはんを提供することができました。子どもたちも毎日お昼ごはんを本当に楽しみにしながら過ごしていました。みなさまのご協力本当にありがとうございました。



楽しく、賢く、学ぶ夏！



自学道場は、7/23~8/31で夏期講習を実施しました。長期休みを利用して、「楽しく、賢く」をテーマに、学校や家では学べないような実用的な学習を行いました。真備の子たちも熱心に参加し、学びを深めていきました。



夏休みの終わりに



夏休みも終盤に差し掛かったころ、ヘッドコーチ安永の古くからの友人で、入園・入学のグッズを製作・販売をされている「ぐうたらや」さんから、レッスンバッグや上履き入れなどのご支援の申し出をいただきました！これがお母さまに大好評。ひげのバッグが特に人気でした。

【ぐうたらや】通販サイト
<https://minne.com/@suzuhime42/>

ヘッドコーチ安永より

まずは夏休み期間、「まびっ子えがおプロジェクト」第一弾を無事に終えることができました。特に食事のご提供をいただいた、守屋さま、高田さま、吉山さまには、多大なるご協力をいただきました。本当にありがとうございました。心より御礼申し上げます。

発災から1ヶ月半が過ぎ、少しずつではありますが、真備の町も復興に向けて動き出している方が増えてきました。私はこの夏、自学道場での復興支援事業の他に、総社市の「学塾 誠和学舎」の高山和成先生、岡山市の「かわた塾」の川田峻介先生とともに2017年に設立した、岡山県の21世紀の教育を考える「岡山次世代スクール協会」のメンバーとともに、復興支援事業として、真備町内で子どもたちの居場所となる「まなびのひろば」を展開しました。

被災者一人ひとりと話す中で、真備の子どもたちや保護者のみなさんが抱えている不安として挙げられるのは、やはりこれからの生活のことです。経済的な不安が一番大きいのはもちろんのこと、子どもたちの目線からすると今まで通っていた校舎が使えなくなったことは大きな影響があります。このままいくと、特に小学6年生や中学3年生はプレハブ校舎で卒業を迎えることとなります。加えて、通学は慣れないスクールバスでの通学となります。まだまだ今までの日常を子どもたちが取り戻すまでには多くの時間と労力が必要となっていきます。

自学道場では、2学期以降も子どもたちの学習機会の保障の場、居場所としての機能を引き続き「まびっ子えがおプロジェクト」第二弾として支援していくことを決めました。この災害で、子どもたちが夢を失うことだけは避けなければなりません。子どもたち一人ひとりが自分の力で幸せを創り上げ、再び真備の町に多くの方が戻れるようになる、そのリーダーになってほしいと切に願っています。

真備町へ、倉敷市へ、岡山県へ、引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。

【当プロジェクトにご支援いただいている皆様】（順不同）

守屋久美さま

高田加奈子さま

うどん工房 遊庵さま

和風料理 町田さま

医療法人社団 東風会さま

入園入学グッズ ぐうたらやさま

（一社）岡山自立支援協会さま

Lala Okayamaさま

田中智子さま

小原陽子さま

自学道場塾生の保護者の皆様

他、多数の皆様

頂戴しました支援金につきましては、食材や、教材・文具を購入する費用、および遠足の際にかかりました費用に充てさせていただきました。ありがとうございました。